様式1

令和2年度　山梨県立中央高等学校 通信制課程 評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	確かな学力の育成・自立する力の育成・健やかな心体の育成に努める

山梨県立中央高等学校校長　川手　正昭

本年度の重点目標	
	「わかる授業」を推進し、レポート作成を通じて主体的に学び、学力の向上をより一層図れるよう工夫改善に努める。
	学校行事やLHRを通じて仲間との交流を深め他者との協働を図り、社会において自立できる生徒を育てる。
	基本的な生活習慣を身につけ、生涯を通じて健康で安全な生活を送ることのできる態度を育てる。

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（2月18日現在）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	「分かる授業」を推進し、生徒が主体的に取り組めるレポートの作成を通じて学習意欲の向上を図り、学力の向上に繋げる	生徒にとって「分かりやすい授業」を展開し、自学自習に取り組めるレポートの作成を行う 生徒の学習状況に合わせた丁寧な添削指導を行い、個別指導を推進する スクーリング日以外の日の登校も促し、個別の学習要求に対して指導を行う	学校評価アンケート（生徒、保護者、教職員） 授業アンケート 成績概況 学校評価アンケート（生徒、保護者、教職員） 授業アンケート 成績概況 学校評価アンケート（生徒、保護者、教職員）	学校評価生徒用アンケートの授業に係る項目が非常に高い。わかりやすい授業（95.4%）、先生は様々な観点からみてくれる(91.7%)。 また、学校評価保護者アンケートも授業がわかりやすいという項が71.7%と高い。学校評価職員のレポートや授業に関する指導工夫等の項目も100%となっている。 そのためか、今年度1単位でも単位を取った生徒は履修登録者163名中131名80.9%であり高くなっている。「分かる授業」を推進し、学習意欲の向上が図られているといえる。	B	レポートがすべての学習の基本となる。授業も前年度作成したレポートに沿って行われるため、授業がよくなるためには、前年度中にレポート改善しなければならない。来年度は新教育課程に合わせレポートを作成しなければならず、それを機に、生徒の実情に合った、一方で、今日的課題に対応したレポートにしていく必要がある。レポートにおいて、観点別評価をどう行うか、主体的対話的深い学びをどう実現するかが大きな課題となる。スクーリング日以外の登校等はさらに検討していく必要がある。
2	仲間との協働の中で各自が成就感・達成感を積み重ねて自信を深め、社会的・職業的自立に向けた態度を育てる	学校行事等に参加する中で、自他を認め合う人間関係やコミュニケーション能力を育てる レポートの提出・スクーリングの出席といった小さな成功体験を積み重ね、自尊感情を高める SC・SSW・高校生こころのサポートルームなど関係機関との連携により生徒支援を充実させる	学校評価アンケート（生徒、保護者、教職員） 学校評価アンケート（生徒、保護者、教職員） 成績概況 学校評価アンケート（生徒、保護者、教職員） 生徒支援資料	コロナ問題があったため、行事を通じて自他を認め合う機会は少なかったと思われる。学校評価の保護者、職員のアンケートには行事に関する評価は低かった(42.9%)が、生徒の行事に関する項目は高い(89.8%)。これは、本校通信制は感染対策を行いながら学園祭、遠足等の行事は他校と比べても行った。 少ない行事の中で、生徒たちはコミュニケーションをとったり、認め合ったりしたのであろう。さらに、SC、SSWの活用等は例年に比べて職員の評価が高まっている(100.0%,85.7%)。	B	次年度は、感染症に注意しながら学校行事をより工夫しながら行っていく必要がある。そのことを通じて生徒の協働体験の経験と自尊感情を高める機会を増やす。さらに、多様な経験をしている生徒たちの心身を支えるために、教育相談や生徒支援体制のますますの充実に努める。そのため、今後さらにSCやSSWを活用し支援会議を開催していきたい。
3	基本的な生活習慣の確立と、健康で安全・安心な生活を送ることのできる態度を身につける	レポートの提出・スクーリングの出席を通じて、期日・時間を守ることの大切さを身につけさせる 自己の生き方・在り方について考え、主体的に生きる態度を育てる	学校評価アンケート（生徒、保護者、教職員） 授業アンケート 成績概況 学校評価アンケート（生徒、保護者、教職員） 授業アンケート 成績概況	生徒は、学校は安心安全と考えている（95.4%）。自主性も尊重されていると感じている（96.3%）。スクーリング時に生徒が登校した時、授業は静かで落ち着いている様子がみてとれる。また、レポート提出やスクーリング出席は生徒の自主性任されている。それらの実態が反映したアンケート結果ではないか。 一方保護者は、いじめのない学校（76.1%）、あるいは、生徒が生き生きとしている（65.2%）等の数値が前年度より低くなっている。	B	生徒アンケートの回答数は、昨年度47名今年度109名と倍になっているが、どの項目も87%以上の高評価であった。 一方保護者は全般的に低い項目もある。これは、学校や生徒の活動が十分に保護者に伝わっていない結果だと思われるため、今後は保護者との連絡を密にしていく。 さらに職員のアンケートは評価が低く、生徒や保護者の高評価と乖離がある。つまり職員集団自らの自己評価相互評価を生徒保護者に比べて低すぎることが課題である。

学校関係者評価

実施日　（令和 3 年 2月28日）

評価	意見・要望等
4	・自己評価の通り、今度の学校改善・点検アンケートの結果を見ると、学習指導に対する生徒の評価は、「多くの先生方は、分かりやすい授業をしてくれる」、「授業態度など様々な観点から評価をしてくれる」といった項目に対する肯定的評価が昨年度と同様に9割を超えており、満足度は非常に高い。 ・教職員のアンケート結果でも、「生徒の意欲の向上のため、レポートに関わる指導の工夫・改善を行っている」「自らの授業を継続的に点検し、指導の工夫・改善を行っている」の肯定的評価は100%に達しており、先生方も責任感や自負心を持って、日頃から学習指導にあたっていることが伺える。総じて学習指導に対する双方の満足度・達成感は高いと評価できる。 ・今後、GIGAスクール構想の進展に伴い、オンラインによる学習の指導・評価の方法は革新期を向かえる。積極的にICTを活用し、生徒の学習に対する達成感・満足度をさらに高めていくことを期待したい。 ・レポートが重要な基本であるということから、前年度中に改善を促し、ま他来年度については、新教育課程に合致したレポートをを作成・創意工夫を行い、生徒に対しては「分かりやし授業」を推進し、学習意欲の向上を図る必要がある。
3	・「学園祭」「環境美化・清掃活動」に対する生徒の評価はほぼ昨年度と同水準であり、新型コロナウィルスの影響で予定通り実施できなかった部分があったものの、快適に楽しく生活できる学校環境が構築されていると評価できる。また「学校には、悩みを話したり、相談したりすることのできる人がいる」、「進進路意識を高めるために、講演会、就労体験、課外講座等の行事が適切に行われている」についてもやや数値は低下しているが、概ね生徒の評価は高い。 ・しかしながら、保護者からの「学校行事」「学園祭」「悩み相談」「進路相談・指導」に対する評価は依然として低いか、微減の傾向にあり、保護者の期待になかなか応えられない難しさがあると感じられる。通信制課程ということもしり、生徒が受けた教育内容に対する充実感や有用感を保護者に伝えていく努力が依然として課題である。 ・また、新型コロナウィルスの感染拡大の影響もあってか、教員からの「体験・課題解決学習などを取り入れて、自ら学び自ら考える力を育成している」「進路意識高揚のために、講演会、就労体験、課外講座等の行事や進路情報の提供が適切に行われている」「個別指導計画の作成や面談等を行い、対人関係能力や社会性が培われている」の評価も著しく低下している。これらの指導については、通信制としての難しさが元々あるのに加えて、この一年は、感染症対応のために多様な体験を生徒に与えることが困難であったと推察される。来年度には環境も変わり、これらの点で善処されることを期待したい。 ・生徒たちは学校行事に関して非常に高い反応を示している。このことから教職員ももっと深く生徒たちと向き合い、打ち解けて輪の中に入り、コミュニケーションをお互いに取り合い、活性化を高めて行うことも方策だと考える。
3	・「学校は安全・安心な環境だと思える」「健康管理に関わる指導が行われている」「学校は、いじめのない学校を目指し、適切な対応をしている」に対する生徒の肯定的評価は9割を超えており、安全・安心な学校環境が築かれていると評価できる。また、教職員による「生徒の問題行動やいじめに対し、対応できる組織づくりがなされている」「いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際に問題を隠さず、迅速かつ適切な対応をしている」との自己評価も高い。一方で保護者からの「いじめのない学校を目指し、適切な対応をしている」の評価は微減傾向で、3や4の評価があることもやや気がかりである。 ・また「教育活動をとおして、生徒の規範意識を育てるような機会をもうけている」の項目では教職員での評価では著しく下がっている（88.9%→57.1%）。学校経営に関しても、「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の肯定的回答が大きく低下（44.4%→14.3%）し、「事故、事件、災害等への対応」「開かれた学校環境づくり」の数値も下がっているなど、教員間の連携に関して課題が見られる。生徒の心の教育や新型コロナウィルスの感染拡大といった緊急時の対応においては、教職員間での日頃からの意思疎通や価値共有が欠かせないわけであるから、今後ともチーム学校として教員間の連携を図っていただきたい。 ・スクーリング時には、先生は教え込むというだけでなく、生徒に対してユーモアを取り入れ、また生徒は授業時リラックスして臨むことができるなら能率も上がると思うし、相乗効果も期待できるのではないか。保護者へのきめ細かい対応も大事である。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。